

2023年秋年末闘争・組織拡大

CTGの建交労道本部闘争速報

2023年10月4日/第1号

〒060-0909 札幌市東区北9条  
東1丁目北海道労働センター2F  
TEL011-711-7377  
FAX011-711-7388  
e-mail/ctg.hokkaido@gmail.com

# 憲法を守り、戦争する国づくりを阻止しよう 全組合員参加の活動で要求闘争の推進を

## 4年ぶりの全面的な対面開催 道本部第24回定期大会

10月1～2日に「建交労北海道本部第24回定期大会」を北広島市で開催しました。4年ぶりの全面的な対面方式での開催で、代議員・道本部役員など40人が出席（ほかに代議員の委任が11人）し、「憲法を守り、戦争をする国づくりを阻止しよう／全組合員参加の活動で要求闘争の推進を」のスローガンのもと、新年度運動方針などすべての議案を可決しました。

大会で森国委員長は「北海道の最賃が40円アップの960円になったが不十分だ。アメリカでも日本でもストライキの力が示されてきている。10月20日から臨時国会が始まるが岸田首相は解散・総選挙の下準備をしようとしている。経済闘争と政治闘争を強めて流れを変えよう」とあいさつしました。宮澤書記長が提案した議案にもとづいて討論がおこなわれ、春闘をはじめとする要求闘争、労災認定のとりくみ、事業団活動、建設労働者のとりくみ、学童保育でのとりくみ、組織拡大、青年部活動などについて8人の代議員が、発言しました。また、新年度役員選挙がおこなわれ、これまでの役員に加えて函館支部の鈴木互さんが新しく執行委員に選出されました。

## JR北海道・第39回安全に関する労使合同会議

7月26日に39回目となる「安全に関する労使合同会議」がJR北海道関係役員と4つの組合から委員長・書記長が出席し開催されました。昨年度の労災発生状況は、死亡労災および三大労災（触車・感電・墜落）の発生はなかったものの全体で154件（前年比▲6件）の労災事象がありました。JR本体では103件の労災事象が発生し前年度より2件増加して過去最多となっています。依然として20歳代の発生が多く全体の半数以上を占めており、手元や足元への不注意や確認不足が多く前年度より16件増加しています。また、冬期間の事象が49件と前年度に比べ12件も増加しており、冬型の労災が27件発生しその中には5件の凍傷もあって猛烈な寒波により大雪となって復旧作業に従事した社員が負傷されたものと考えられます。厳冬の作業に適した防寒具の貸与などで防げなかったのか疑問があります。

続いて、1月に石北線で発生した鹿との衝突事故に付随した撤去作業の安全問題で、指令と駅係員との「連絡と確認」が疎かな状態で列車を運転再開させたことにより、鹿の撤去作業に向かうために線路内を歩行していた駅係員を運転士が発見して列車を非常停止させた事象の報告でした。列車を一刻も早く走らせたいと思いによるものでも「安全確認」を怠って良いものではなく、今回の事象で全ての社員に「安全第一と確認の励行」「疑わしい時には動かない」ことが徹底されることが求められます。昨年4月、知床で遊覧船沈没事故が発生した際に無線や携帯電話が繋がらないことが問題視されていましたが、竹田委員長は「JRの線路が敷かれている場所から指令との連絡が取れない箇所が未だに存在すると知ってとても残念に思い天井を見上げました、石勝線での特急列車脱線火災事故の際に同様の問題が指摘されており改善されたものと信じていましたので」と話しています。

《お詫び》闘争速報の編集作業の都合で掲載が遅れました